

三菱自動車の中国合併企業②

三菱自動車の中国での事業展開についてお問い合わせが多いので、上海事務所での現地法人（製造会社）の概要を取りまとめました。

東南(福建)汽車工業有限公司

概要

株 主：福建省汽車工業集団（50%）

裕隆汽車集団 中華汽車工業股份有限公司（25%）

三菱自動車工業株式会社（25%）

製造拠点：福建省福州市閩侯県青口投資区

開発拠点：2005年7月より技術研究センター建設、2006年6月業務開始。

初期投資：7.527万元、建築面積：1.09万㎡

その他：「国家級試験室」、「福建省省級技術研究センター」、「福建省ハイテク企業」などの称号を受ける。

製造車種・台数：

車種	モデル	2008	2009	2010
乗用車	Dodge Caravan	645	38	1,005
	富利卡 (Freeca)	1,107	406	620
	戈藍 (Galant)	4,018	3,665	2,556
	大捷龍 (Grand Voyager)	2,169	277	126
	菱紳 (Grandis)	702	-	-
	藍瑟 (Lancer)	14,068	8,592	5,257
	藍瑟・翼神 (Lancer EX)	-	6,794	24,864
	菱悦 (Lingyue (V3))	-	62,690	74,169
	菱帥 (Lioncel)	9,803	5	-

威利卡 (Veryca)	181	3	5,154
君閣 (Zinger)	386	3,151	1,809
乗用車 Total	33,079	85,621	115,560

最近の動き（発表資料、報道資料等から作成）

- 2010年8月：福建汽車は三菱自動車による東南汽車への出資比率の引き上げについて合意。三菱は排気量1.0Lの世界戦略微型車など複数の新型車を東南汽車に導入する計画。
- 2010年7月：東南汽車は福州工場を拡張して年産能力を現行の15万台から30万台に引き上げる計画。近々着工し、2013年までに竣工する予定。同社の販売目標は2010年が12万台で、2012年には20万台に引き上げる方針。2010～2012年に新型車を合計6車種投入する計画で、内訳は三菱ブランドが小型SUV「RVR」と新型「Colt」の2車種、東南汽車の自主ブランドが4車種(MPV/SUVが各1車種、「V3」より小型の轎車、EV「V3e」)。
- 2010年5月：東南汽車は今後3年間の発展戦略計画を発表し、2012年に完成車の生産販売台数を30万台とする目標を掲げた。毎年少なくとも1車種を投入する計画で、2010年内には6車種を投入する。東南ブランドではすでに市販した「V3菱悦(Lingyue)」CVTタイプのほか下半期に「V3菱悦」のマイナーチェンジ、商用車では「得利卡(Delica)」マイナーチェンジと「C1得利卡」フルモデルチェンジ、三菱ブランドでは「藍瑟翼神(Lancer EX)」の改良型、「藍瑟(Lancer)」2010年型及び「君閣(Zinger)」フルチェンジモデルを投入する。
- 2010年4月：中華汽車が出資先である中国の東南汽車は、中台間の経済協力枠組協議(ECFA)の発効後、台湾で主力セダン「V3菱悦」を販売する計画。また、中国で生産していない三菱「Colt Plus」や「Outlander」を中国で販売する計画。
- 2009年11月：東南(福建)汽車は2010年の生産・販売目標を12万台に設定した。2009年の販売台数は前年比4割増の8.5万台になる見込みで、年末までには販売代理店を160店舗に増やす。2010年には「V3菱悦」のマイナーチェンジモデル及びスポーツ仕様を投入する他、10月に新モデル「希旺」を投入する。さらに2011年には「V4」と中高級モデル「V5」を投入する予定。「V4」及び「V5」の投入にあたっては工場を拡張する必要があるとの見解を示した。また、中華汽車のネットワークを活用して製品を台湾に輸出することも検討中。
- 2008年10月：販売不振が続く事業の打開策を図るため、三菱自動車及び中華汽車と資本増強について協議中。増資後の出資比率に変更はない見込み。部品及び原材料の調達コスト削減や、販売体制の強化、三菱ブ

ランドモデルの導入及び自主ブランド車の開発強化などを柱とする「3ヵ年振興計画」を策定中で、増資分は主にこれらの事業に充てられる。また、現在は1本化されている販売網について、今後は自主ブランドと三菱ブランドの2つに分けて構築していく方針。東南汽車のロゴも残し、高価格モデルは「三菱」、低価格モデルは「東南」のダブルロゴとする方針。

東南汽車城について

1995年、福建省汽車工業集団と台湾最大の自動車メーカー裕隆集団の中華汽車会社が合併し福建省福州市に東南(福建)汽車工業有限公司(以下、東南汽車)が設立された。

それに伴い台湾中華汽車系列の35の部品メーカー、中国国内の100を超える部品メーカー、関連企業が東南汽車メイン工場を中心に集まり敷地面積200万㎡、総投資2.7億ドル(第1期)の「東南汽車城」が形成された。現在では、プレス、溶接、塗装、組み立て工程まで前工程から最終組み立て工程を有し、業種別に完成車、板金、化学、機電、専用部品のエリアを有し、自主生産能力と研究開発センターを備えた、年産30万台規模の国際レベルの自動車生産基地となった。